

## 令和元年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について

### □令和元年度 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会事業計画(案)

昨年度、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条に基づき、令和元年度から令和5年度までを計画期間とする「第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画」を策定しました。

この計画は、まちづくりや観光施策とも連携し、明知鉄道を基軸とした公共交通ネットワークを改めて構築するため、基本となる方針や計画の目標・評価指標を定めたもので、計画の初年度にあたる本年度は、路線検索システムの構築や鉄道・バス共通1日券の販売、運賃のキャッシュレス化に向けた準備を行うとともに、その他の事業を進めるために必要となる組織の立ち上げ、地域・事業者との協議、実施内容の検討などを行います。

明知鉄道については、安全運行に不可欠な老朽施設の更新と、植樹等による沿線景観整備を通じて、市民が自発的に支えたい環境づくりを進めます。また、NHK連続テレビ小説「半分、青い。」効果に加え、大河ドラマ「麒麟がくる」を活かした観光誘客による利用者の増加を図ります。

バス運行については、当地域の将来を担う児童・生徒の通学利便性の向上、高齢者のおでかけ機会の確保を目指して、それぞれの地域に適したバス交通となるよう検証と改善を行います。

事業内容は、主に次のとおりとします。

#### (1) 会議

会議名	主な内容
第1回協議会 (令和元年6月12日)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平成30年度事業報告並びに収支決算報告について</li> <li>2. 令和元年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について</li> <li>3. 恵那市地域内フィーダー系統確保維持計画について</li> <li>4. 明知鉄道生活交通改善事業計画について</li> </ol>
第2回協議会 (令和元年11月下旬)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について (陸上交通における地域内フィーダー系統)</li> <li>2. 令和2年度活動方針(案)について</li> </ol>

(2) 主な事業

事業名	内 容 等	
<b>第二次明知鉄道沿線地域公共交通網形成計画の推進</b>		
【目標1】公共交通を「支える」「活用する」「活用する」地域住民の活動促進	1. 公共交通を「活用」する市民の意識づくり	1. 観光列車やイベントでの市民による活動 ・モデル地域を1地域選定・協議 2. 地域イベントと連携した公共交通の活用 ・イベントについて地域・事業者と連携を協議 3. SLの復元を通じた地域づくり ・SL乗車等体験、SLファンクラブ拡大策実施 4. 住民活動や高校生に使いやすく人が集う駅づくり ・地域・高校生へのニーズ調査、実施検討
	2. 公共交通を「支える」市民の活動促進	1. 明知鉄道が有するさまざまな価値の発信 ・各地域において懇談会を開催 <b>2. 沿線環境の整備</b> ・ <u>地域住民による沿線環境（景観）整備・植樹</u> 3. 収入源の拡大 ・各種定期券の発行検討 4. モビリティマネジメントの推進 ・ふれあい列車運行、高校生ミーティング開催、高齢者団体への利用促進PR、バス時刻路線マップ作成
	3. バス運転手確保に向けた全市的な取り組み	1. 職業紹介企業との連携による募集活動 ・合同企業説明会出展（運転手確保） 2. 資格取得の奨励策の調査・検討 ・合同企業説明会出展（若者の定住促進） 3. 有償運送等運転手の養成講座の開設 ・関係部署との連携強化・情報共有
【目標2】沿線への移住定住を促す地域公共交通ネットワークの形成	1. 地域全体の総合的な公共交通ネットワークの形成	1. 恵那駅周辺での循環線の新設 ・検討会の設置・検討 2. 幹線と地域路線の見直し ・地域路線（岩村・山岡）の検証と改善 ・「地域内フィーダー系統確保維持計画」に基づく事業の実施（上矢作地区のバス路線の運行とフォローアップ調査） 3. 明知鉄道の1時間1本化 ・課題抽出、具体策の検討
	2. バスによる通学利用促進	1. 通学路線のルートやダイヤ、運賃の検証・改善 ・中野方線の高校通学対応に向けた課題抽出 2. スクールバスの調査・活用 ・混乗に向けた諸条件・制度の整理 <b>3. 運賃のキャッシュレス化</b> ・ <u>動向調査、方策検討</u>

	3. 地域によるバス運営の展開	1. 自主運行バス運営方針の遵守 ・ 収支率に基づく路線の見直し検討 2. 地域検討会の開催 ・ 路線見直し基準・路線再編に伴い随時開催 3. 地域移送サービスの発展支援 ・ 関係部署との連携強化・情報共有
	4. 快適な公共交通利用環境の整備	1. 施設の更新 <b>明知鉄道</b> ・ 線路設備 PCマクラギ交換（山岡～明智間） マクラギ同種交換（恵那～飯羽間間） ・ 防護設備 法面固定（山岡～野志間） ・ 防護設備 線路側溝（山岡～野志間） ・ 線路保存、電路保存、車両保存 ・ 車両全般検査 1両（アケチ14号） 2. P&R、サイクルトレインの推進 ・ 駅駐車場PR・サイクルトレイン拡大検討 <b>3. 鉄道・バス共通1日乗車券の販売</b> ・ <b>事業者間調整、販売</b>
	5. 関係者との連携強化	1. 恵那峡線・蛭川線・中津川線・明智線の改善・利用促進 ・ 日帰り旅コースの設置（3-1-3再掲）、利用促進PR 2. 隣接自治体との関係強化・組織間ネットワークの充実 ・ 隣接自治体の地域公共交通会議での協議
【目標3】域外から来た人や高齢者が抵抗なく自然に移動できる環境の整備	1. MaaSを意識した観光資源を結びつける取り組み	1. 運賃のキャッシュレス化（再掲 2-2-3） <b>2. 路線検索システムの構築</b> ・ <b>標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）のデータ整備、オープンデータ化</b> ・ <b>コンテンツプロバイダーへの掲載（Google他）</b> 3. 日帰り旅コースの設置・運用 ・ モデルコース2案検討・運行
	2. バリアフリー化を通じたサービスアップ（現状維持から発展へ）	1. 駅舎などのバリアフリー化 ・ 恵那駅・明智駅・施設設備等の状況調査 2. ボランティア車掌の創設 ・ 車掌創設に向けた検討・募集 3. 外国語案内・バス系統番号の表示 ・ 主要駅ホーム英語表記案内看板の整備検討
	3. 観光列車の推進	1. 観光列車と広報・周知の充実 ・ 料理列車運行、孫とおでかけふれあい列車運行、ウォーキングイベントとの連携開催 2. 観光列車やイベントでの市民による活動（再掲 1-1-1）

□令和元年度 明知鉄道沿線地域公共交通活性化協議会収支予算書（案）

【収入の部】

（単位：円）

款	項	目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減 (R元—H30)	説明
1 負担金	1 負担金	1 負担金	3,200,000	5,203,000	▲2,003,000	恵那市
2 補助金	1 補助金	1 補助金	0	0	0	国
3 繰越金	1 繰越金	1 繰越金	1,028,071	2,077,966	▲1,049,895	前年度繰越金
4 諸収入	1 諸収入	1 雑入	929	34	895	預金利息
合 計			4,229,000	7,281,000	▲3,052,000	

【支出の部】

（単位：円）

款	項	目	本年度 予算額	前年度 予算額	比較増減 (R元—H30)	説明
1 運営費	1 会議費	1 会議費	60,000	50,000	10000	協議会開催経費
	2 事務費	1 事務費	50,000	50,000	0	消耗品費、役務費、印刷費など
2 事業費	1 事業費	1 事業費	4,019,000	7,081,000	▲3,062,000	・フォローアップ調査 800,000 ・利用促進・PR（バス時刻 路線マップ作成等） 1,260,000 ・観光振興事業（SL体験等） 1,119,000 ・その他事業 840,000
3 予備費	1 予備費	1 予備費	100,000	100,000	0	
合 計			4,229,000	7,281,000	▲3,052,000	

